

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第1回女性参画推進専門委員会の概要について

1 開催概要

- (1) 日時 平成26年7月11日(金) 13:00～15:00 水産会館大会議室
- (2) 出席者 委員 13名(全員出席)
- (3) 審議事項等
 - ① 復興に係る県の男女共同参画関連施策について(報告事項)
 - ② 東日本大震災津波からの復興に係る意見交換会における提言の反映状況について(報告事項)
 - ③ 女性参画推進専門委員会による現地調査の概要について(報告事項)
 - ④ 「いわて復興レポート2014」(素案)について(審議事項)

2 委員長・副委員長の選任

委員長(互選) 菅原 悦子(岩手大学副学長)
副委員長(委員長の指名) 盛合 敏子(県漁協女性部連絡協議会長)

3 審議概要

復興レポートについては、**委員からの意見を踏まえ**、所要の修正を行った上で、7月22日開催の復興委員会に提出することとされた。

なお、**審議中に出された主な意見**は、次のとおり。

(平賀委員)

- ・被災家族の女子生徒が大学進学をあきらめているような実態がないか心配している。震災による影響を明らかにし、現状に応じた取り組みとするため、震災前後の**大学進学率の変化をはじめとした統計を男女別に把握**してほしい。

(両川委員)

- ・自分のことができない、学力が劣るなど子どもへの震災の影響が大きい。
- ・中学校・高校で、家族、郷土愛といった教育に力を入れてほしい。
- ・復興レポートでは、ハード面だけでなく、**健康、生きがい、精神**といった**人間の復興に関する項目**を設けてほしい。

(長野委員)

- ・「保健・医療・福祉」の分野で、**子どもの肥満対策**に取り組んでほしい。子どもの肥満対策にしっかり取り組まないと、将来、生活習慣病や脳卒中等が懸念される。
- ・震災関連死の検証をしっかりとってほしい。

(福田委員)

- ・**食育は親への啓発が重要**。生活習慣病対策は県で声を大きくしてやってもらいたいし、協力していきたい。

(佐賀委員)

- ・この春に被災地から盛岡市に戻って、被災地への想いが薄れていることに驚いた。**内陸でも復興教育が重要**であるとともに、被災地の**弱った人々に手を届けることが必要**。
- ・課題は分野別に分けられないところがある。例えば、子育てについての課題「子どもの肥満」について、健康・福祉の分野や教育の分野でそれぞれが様々な取り組みを行い、少しずつ成果が出てきている。沿岸地域では思うように運動ができない環境や給食がない地域、落ち着かない家庭環境など、問題が多い。今後、**各分野をつなぐ取り組みが必要**になってくるのではないか。

(瀬川委員)

- ・**被災地同士のつながり**も必要になってくるのではないか。

(大沢委員)

- ・現地調査では、重茂漁協女性部のパワーに励まされた。一方、大槌町では、仮設住宅での父子家庭や不登校など深刻な話が多く、なんとかしなければならぬ。

(山屋委員)

- ・もともと潜在していた問題や、震災によって死別、離別、避難など家族の形や生き方が変わっているのに従来の性別役割分業意識に縛られ、女性も男性も生きにくくなっている。また阪神淡路大震災では見えなかった困難リスクの高い女性、子ども、ひとり親家庭、障害者、セクシャルマイノリティの方々など、そこに多くの困難、しわ寄せがきている。「暮らしの再建」に「**社会的包摂の視点を持つ人材育成と包括的な支援体制をつくり、実施する**」という記載がほしい。そのための研修や啓発を行い、多様な生き方を支え、支えあう「まちづくり」が必要。地域復興支援によって誰もが生きやすい「岩手」を実感していけるのではないか。

(熊谷委員)

- ・岩手県は半農半漁が多く、**6次産業化の支援**を更にやっていただきたい。被災者が、特に女性の場合は、担保がないなど融資を受けられない場合が多いので、その点を重点的に進めてほしい。

(菅原委員長)

- ・震災が原因で女性が不利益を被っていないか人口減少が何故進んでいるのかを検証するためにも**ジェンダー統計を徹底**してほしい。
- ・事業の進捗等の指標はハード面に關わるものが多く、**人間にかかわる指標**が少ないため、県民の実感と乖離しているのではないか。難しいと思うが、次回は指標の立て方を工夫してもらいたい。
- ・「**参画**」を検証する**指標を新設し、若者や女性の参画の現状を見える化する工夫**をしてほしい。
- ・この委員会の実効性を高めるために、課題別に議論を行う**ワーキンググループを設置**してもらいたい。